



森のなかま

2012年 9月号
NO. 53 (継続198)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

発行人 久保 重明

『やどりき 水源林 の つどい』 開催！

8月11日(土)

今年初参加の5団体をプラスして14団体が主催。恒例の「やどりき水源林のつどい」が、盛大に開催されました。



当日寄大橋より

主催 県民との協働による森林づくり実行委員会

公益財団法人かながわトラストみどり財団、神奈川県、南足柄市、神奈川県森林組合連合会、神奈川県木材業協同組合連合会、神奈川県山林種苗協同組合、神奈川県森林協会、連合神奈川、湘南リビング新聞社、神奈川新聞社、南足柄緑の少年団、箱根みどりの少年団、NPO 法人かながわ森林インストラクターの会

共催 松田町

協賛 神奈川県内広域水道企業団

昨年度は雨で中止となり、今年も雨が心配でしたが、途中に降った小雨だけで無事終了いたしました。263名の参加者の中には連合神奈川様からのお話があり、神奈川県ユニセフ協会様が御招待した被災地福島県の11人の方々の参加もありました。また、神工舎建築工房様より緑の募金箱、水生生物のビンゴ景品の間伐材コースターを提供して頂きました。コースターはやどりき水源林と箱根の県有林の間伐材です。

受付・迎バス車中



新松田駅
バス駐車場で受付

車中で森林インストラクター
からコース説明等を受ける

水生生物観察

冷たい水に浸かり
水生生物ゲット



オツ
これは何だろう？

トレッキング

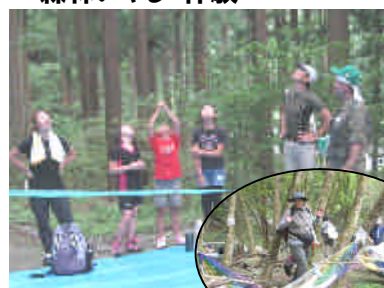
林道コース

Bコース



森林癒し

癒しの森で
"森林いやし"体験



森のコンサート

草笛名人



祭り囃し



開催ごあいさつ



司会進行の
ウグイス嬢
OK & AK さん



ビンゴゲーム



森林交流会

丸太切り体験



人気があるんだな一
珍しい外国人の参加



草笛

僕もうまく吹けるかな



グッズ販売

プロ級の作品はいかが



クラフトコーナー

子供も大人も夢中



森林癒しコーナー

匂い袋はいかがですか



野点



もう一杯 如何です?

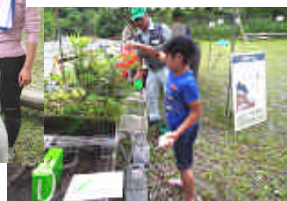
スイカ割り

イメージはヒット
現実は??



水涵養実験

熱心に聴きいる親子と
自ら実験する子



ゲーム



鯛焼き



今年初めての出し物
大人気でした

水生・土壌生物観察



可愛い"サワガニ"が
泳いでいます

(写真、記録 7期 伊藤恭造氏、広報部 鈴木松弘氏)

“森は海の恋人” 畠山重篤さんのあまりにも有名な言葉。健全な山があって森があって海は生きます。地道に健全な神奈川の山の保全に取り組んでいるボランティア活動をご紹介します。

神奈川県自然公園指導員について

神奈川県自然環境保全センター自然保護課 阿部 健太郎 様

(写真も提供して頂きました。)

神奈川県には富士箱根伊豆国立公園をはじめとする6つの自然公園と2つの長距離自然歩道があり、多くの方が登山や自然散策などで利用しています。昔に比べると公園利用のマナーは良くなったといわれていますが、それでも一部の心ない人によるゴミの投げ捨てや、貴重な動植物の乱採取などがまだ見受けられます。また、登山初心者の準備不足や体力不足、不注意による遭難・怪我なども数多く起きています。神奈川県自然公園指導員制度は、県内の自然公園の風致景観の保護と適正な利用について指導普及活動を行い、自然保護の推進に努めることを目的にした制度です。現在「人と自然が好きな 20～74歳の方」を条件とする公募に応じた約200名のボランティアの方々に対し、2年間の任期で知事が委嘱しています。

指導員の方には、腕章をつけて県内の自然公園や長距離自然歩道を巡視していただくとともに、以下の活動をお願いしています。

- (ア) 自然公園法や条例に違反する動植物の採取・捕獲の指導、ゴミ持ち帰り、火災予防指導、登山での自然環境への配慮などについての指導
- (イ) 適切な装備、天候の状況、登山コースの難易など自然公園利用者の事故防止のための指導
- (ウ) 景勝地、動植物、地形地質、自然現象、コースのとり方や観賞方法などについての解説
- (エ) 自然公園法や条例違反行為、廃棄物や土砂の不法投棄、公園施設の不法占拠(売店など)などを発見した場合の報告
- (オ) 公園施設の不具合、危険箇所、自然現象や希少動植物などに関する情報の報告
- (カ) その他、県の要請する事業及び調査などへの協力

指導員の方々からの巡視報告をもとに県の管理する公園施設や登山道については現地を確認し、順次補修を行っています。また他機関が管理する施設の状況はそれぞれの管理者へ伝えるとともに、登山情報はビジターセンターや公園協会へも連絡して一般登山者に対して情報を提供しております。自然情報は野生動物の保護管理や丹沢の自然再生のための研究にも役立てています。



水切りの掘削

補修隊の活動 ほんの一部



落ち葉かき

また、指導員と県の担当者が一緒に現場に行き、登山道の補修を行う「登山道補修隊」を、年十数回実施しています。補修隊は、手作業でできる軽作業で具体的には、倒木の除去、土のうによる補修、水切りの掘削、木橋の据え直しなどです。冬季にはヤマビル対策のための落ち葉かきも行っています。箱根地区では、環境省、箱根町と合同で特定外来生物であるオオハングソンウの駆除も行っています。

以上、神奈川県自然公園指導員について、簡単にご紹介しました。次回の自然公園指導員の委嘱は再来年度となります。ご興味をもたれた方は神奈川県自然環境保全センター自然保護課までお問い合わせください。

私の認識

野鳥その101

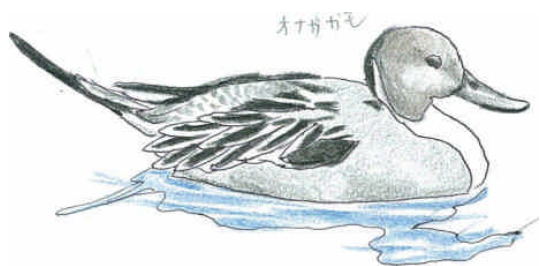
高橋 恒通

ガンカモ目ガンカモ科の野鳥3番目は、冬鳥のオナガガモ(漢和名:尾長鴨、英名:Pintail、体長♂75 cm、♀53 cm)です。

オナガガモは我国で観察できるカモ類の中で、名前の通り最も長い尾羽を有し、然も首も長めなので外観が大変にスマートな野鳥です。殊に♂はその体色との絡みで一段と万人向きで姿の美しい鴨だと私は認識しております。

♂の体色は黒い嘴、茶褐色の頭部と後頸、前頸から体下面が白色で、その白色の毛が細い紐状となって茶褐色の側頸から同色の後頸辺に伸びており、その白線の為に視覚的に首を更に長く見せる効果を発揮しております。

それに加えて♂の体色は体背面から側面にかけて灰白地茶褐色が小さな班入り状で、恰も江戸小紋の如き色合いと景色、そして細長い肩羽は黒色地を灰白色の羽縁が囲み、まるで笹の葉の様な模様です。また黒くて長い尾羽の下尾筒の基部に黄白色の部分が目立ち、併せて翼鏡の鮮緑色が大変に印象的です。



これに反して♀の体色は全身が地味な褐色地で、背面や側面全体が褐色地に褐黄色の斑の混じったものと私は認識しております。

オナガガモの地球上での棲息領域は、ユーラシア大陸と北米大陸の亜寒帯で繁殖し、越冬は日本の他メキシコや中米、西は中国南部、インド半島南部、及び地中海沿岸域です。

我国での棲息環境は湖沼、河川、池、内湾などです。飛来直後は集団で海上に居て徐々に内陸の淡水域に移動すると言われています。

淡水ガモのオナガガモの採食は、夜間に水田や湿地などで水草の葉や茎や水辺の草の実、そ

して水棲昆虫などです。その姿勢は水中に長い尾を立て、逆立ちをし、長い首を活用して、他の淡水ガモ類より少し深い水底からの採食で棲み分けをしていると考えられています。然しながら、ハクチョウ類に餌付けされている処では一日中そこで生活するものも沢山います。

テレビでハクチョウに餌を与えている場面を注意して見ていると、ハクチョウに混ざっているカモの多くがオナガガモである場合が多いと私は認識しております。

今から十数年前、上野不忍池に迷鳥のクビワキンクロと言う淡水ガモが一羽だけ飛来しバーダー仲間では話題となり、私も観に行った折、池の鴨の大半がオナガガモで我々の足元にまでやって来てビックリした経験があります。その時、年配のバーダーが「写真を撮る連中の中にクビワキンクロを近くに寄せる為にパン屑を撒くのでオナガが上陸して来るんだヨ。良くない事だ」と呟いていました。

タンチョウやハクチョウそしてナベヅルへの人為的な給餌はともかく、人間の個人的な目的の為に野生の生き物への節度の無い給餌は慎むべきであります。それから日本野鳥の会が主導して毎年正月に行う“全国一斉ガンカモ調査”の集計結果によりますと、オナガガモは世界地図上での繁殖領域が広大な割には、神奈川県下で越冬するカモ類の中では何故か数は多い方ではありません。そして♂と♀との比率は♂>♀の傾向が高い方です。

因みに、前稿で紹介したオシドリに関して♂♀の比率は♂>♀の傾向がこれも一段と高い結果が出ています。これが環境の変化とどう関連しているかの学問的理由は不明ですが、鳥好きにとって姿形の美しい♂が多く見られる事を「自然からの有難い贈物」だと考え素直に享受しております。

(参考資料)

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑 7, 写真・解説/叶内拓哉, 分布図・解説協力/安部直哉, 解説(鳴声)/上田秀雄, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, 写真カラー名鑑 編 高野伸二, 解説 浜口哲一, 森岡照明, 他, 山と溪谷社

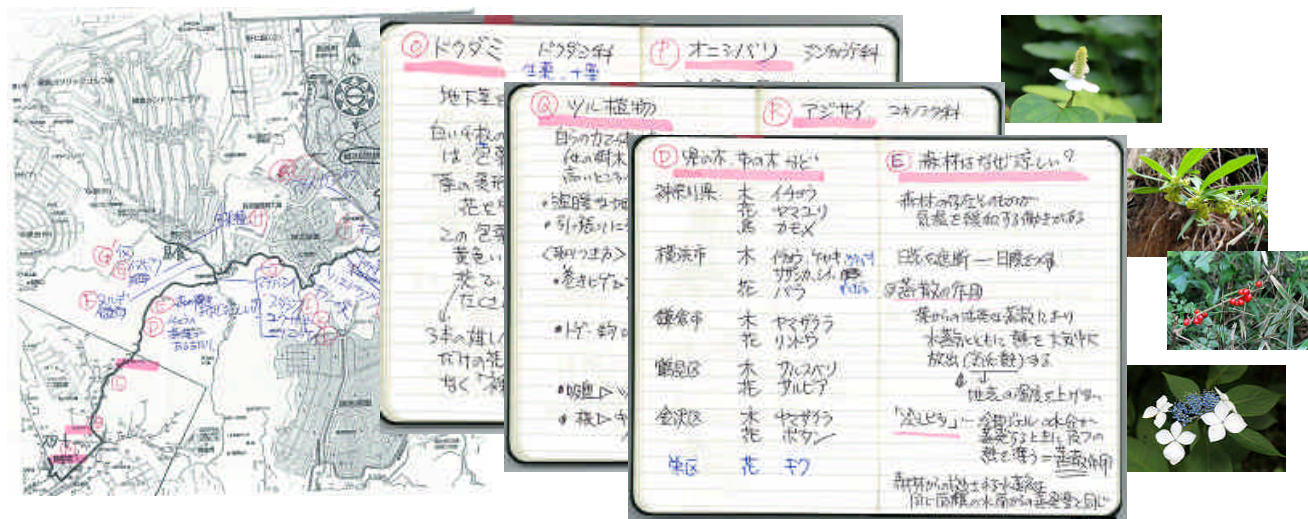
◎イラスト 広報 大塚 晴子

私の森林インストラクター デビュー戦

7月1日(日)

小池 哉 (12期)

「これからは山に恩返しをするつもり」——。学生時代アルバイトをしたスポーツ紙の写真部デスクだったMさんと久々に会ったとき、聞いたこの言葉が自分にとって“ある道”を示してくれたように思う。都岳連に加盟する山岳会の代表を勤めるMさんは定年後、自然公園指導員や自然保護指導員などで積極的にボランティア活動をしているという。Mさんの“言葉”をきっかけに、「かまぐら緑のレンジャー」の活動や「里山ガイド講習会」「日本自然保護協会自然観察指導員」「プロジェクト・ワイルド」などを受講し、その“集大成”として「神奈川森林インストラクター12期生」に応募した。昨年秋に認定されたものの、まだまだ知識不足の感があり、なかなか“第一歩”を踏み出せないままだったが、ようやくデビューのチャンスが巡ってきた。地元鎌倉の天園ハイキングコースを利用した、横浜市立豊岡小学校の上郷宿泊体験学習での自然観察会である。今回はインストラクターとしての“デビュー戦”であるので、前日までどう説明しようかと悩んだが、自分が得意とする写真を使って説明する方法で自然観察会を組み立てていこうと決めた。



地図上にどこでどの説明をするかといった合番を示し、ノートに要点をまとめた。ドクダミの花(O)やオニシバリの別名がナツボウズであること(P)、アジサイの装飾花(R)については写真を使った説明をしようと、A4サイズにプリントしたものを用意した。

さて当日——。ときおり小雨がパラつくあいにくの天候の中、雨が本降りになる前に子どもたちにお弁当を食べさせてあげたいと、お昼の目的地である天園へと急いだ。説明の時間はとらないことになっていたが、休憩時間を利用して「神奈川県の木は何か?」というクイズ(D)を出した。午後は天園で見られるブタナやシロツメグサなどの帰化植物についての説明でスタートし、ゴールの横浜自然観察の森に向けて出発した。時間的な余裕が多少あったので、横浜市最高地点(159.4メートル)では、「日本で一番高い山は?」「2番目は?」「世界で一番高い山は?」と山歩き気分を盛り上げた。途中、「森の中はなぜ涼しいのか」といった森林の働き(E)を考えてもらったりして歩き、予定通り目的地に到着することができた。6月に弘法山で行われた自然観察部会の研修会で、「準備したものをすべてを観察会で説明することはなかなかできない」と野田さんからお聞きした通りであった。今回は、用意したメモからの説明や写真を披露するタイミングがなかった。しかし、観察会での本来のインストラクターの役割とは「**自然と参加者を結びつける**」ことであり、「**自分が自然から感動したことを参加者にどう伝えるか**」である。

これからも自然に親しみ、自然の不思議や美しさなどに素直に感動する「センス・オブ・ワンダー」、「神秘さや不思議さに目を見はる感性」を大切にしながら勉強していきたいと、改めて感じた“**デビュー戦**”であった。

対象活動 ◆横浜市立豊岡小学校 上郷宿泊体験学習ー神奈川県森の森を知ろうー

日時：7月1日(日) 11:25~14:30

場所：鎌倉宮ー天園ハイキングコースー横浜自然観察の森(上郷森の家)

参加者：横浜市立豊岡小学校4年生106名 引率教職員とボランティア:8名

インストラクター：L 足立④ 渡辺③ 草野⑧ 野田⑧ 三浦⑧ 小林⑩ 松永⑪ 安井⑫ 小池⑫

活動短信

7/7~7/27

紙面の都合上、次号になるものもあります。
予めご了承下さい

◆「川崎市里山ボランティア育成講座」第3回

- 日 7月7日(土)9時~15時
 場 講義:高津消防署 実習:末長熊野森緑地
 参 一般市民による講座メンバー36名
 スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか12名
 イ L金森⑩ 清水⑧ 小林⑩ 福島⑪ 門澤⑫ 山崎⑫

全6回講座の第3回目。朝からの曇り空、時より雨がぱらつき午後の実習が心配されたが、幸いにも実習の時間帯は晴れてスケジュール通り進めることができた。高津消防署にて救急法(心肺蘇生法、AED、回復体位)の講義と実技を行う。初め受講者に硬さがみられたが、各自が救急通報やAEDを担当するうちに一体感が生まれ、手際良く、学習効率・効果も上がっていった。午後は、久本薬医門公園に再集合し、現地活動団体の紹介、付近の散策(江戸見桜、ターザンの木)を行う。熊野森緑地は狭いながらも地元の貴重な散歩コースとなっている。班に分かれて約1時間汗を流して笹を刈る。皆さん作業を待ち望んでいたかのように熱心に取り組んでいた。使った鎌の手入れをし作業は終了。次の第4回目は10月6日(土)新川崎・創造のもりK2ハウス、さいわいふるさと公園にて毎木調査と計画づくり、樹木の間伐、枝打ち等を予定する。

(記 10期 金森)

◆ 県民参加森林づくり体験講座(下刈り)

- 日 7月8日(日)8時30分~13時50分
 場 山北町谷峨
 参 県民など25名
 財 永島様 古舘様
 イ L橋本⑩ 井出① 高橋③ 滝澤⑤ 小野⑦ 黒沢⑧ 柴⑪ 碓井⑫

当日は曇り空ながら西の空は明るく、気温も朝方は低めであった。作業前のインストラクターへの本日作業上の重点注意事項3点(熱中症予防、足元注意、大鎌の使い方)につき確認。谷峨駅前でオリエンテーション、準備体操し、4班に分かれて作業現場へ。現地は谷峨駅南東側の山手にあり、コナラ・ミズナラ植林地で傾斜地であるのと伐採木が多数斜面に残されており、足元を注意しながらの作業となった。時々晴れ間もあり、徐々に気温・湿度が上がり始め、思ったよりも雑草やツルが強靱で、作業開始と同時にたちまち汗が噴き出してくる。作業は熱中症予防のため頻繁に休憩を取りながら進められ、途中にわか雨の時間帯もあったが、特にけが人もなく、無事11:50頃に作業終了。昼食後、ミニ講座「植物の病気」の後、再び新松田駅に戻り解散。インストラクターの反省会で、今回の現地の雑草やつる草の状況から、大鎌のほかに鉋、鋸も準備してほしかったとの意見があった。安全作業上での

点では特に問題はなかったが、体力に自信のない人が参加されている場合の対処の方法・仕方に課題が残った。

(記 10期 橋本章)

◆ 県民参加森林づくり(下刈り)

- 日 7月21日(土)8時30分~13時30分 曇り時々小雨
 場 秦野市堀山下(全国植樹祭植栽地)
 参 大人81名
 財 内海様 永島様、 青木様
 市 秦野市職員 2名
 イ L松本⑪ 友谷① 柏倉④ 森本⑤ 北村⑥ 武者⑦ 草野⑧ 阿部⑧ 三浦⑧ 篠原⑨ 高橋⑨ 中元⑩ 山下⑪ 徳岡⑪ 佐藤(義)⑪ 東(昭)⑫
 全国植樹祭植栽地の下草刈り。樹は高確率で根付いている。前日から雨模様、当日の天気予報は降水量1mm/h。今の時期一番怖いのは熱中症。天気予報は降水確率が高いが温度は21℃と5月並み。逆に捉えると絶好の肉体労働日。財団の実行判断に感謝。草刈り面積は去年の約1.6倍。予定人員100人に対し99人の応募で最近にない人気との事。当日は雨模様で81人の参加。駅集合から戸川公園に移動。財団のお話に続きインストラクターより、作業内容、注意事項等を行い、子供達を相手に鍛えている山下インストラクターの指導で体操を行った。皆さん体が解れた様であった。道具置き場所まで移動し、ヘルメットの装着、ヒル対策等を行い現場へ。インストラクターの指示で作業開始。作業面積が広く遅れ気味の班もあったが他班の応援で無事終了。ヒル被害はあったが、トラブルも無く無事終了。公園に戻り昼食、昼食後に“丹沢は海からやってきた”の講話をした。緑基金寄付のお願いや12期生出演のBS番組の紹介を行った。今日参加の方々は意識が高く他班の応援や寄付に協力的であった。また、ここは一番人気のある場所であると感じられた。

(記 11期 松本)

◆ (株)日立システムズ「水生生物観察会と木工クラブ」

- 日 7月21日(土)9時25分~11時 雨
 場 やどりき水源林
 参 (株)日立システムズ 102名(子供:47名 大人:55名)
 イ L竹島⑧ 井出① 渡辺③ 高橋③ 齋藤⑥ 山崎⑦ 中島⑨ 加藤(久)⑫

梅雨明けの最初の土曜日でかつ終業式の翌日という好日程のはずが、昨夜来からの雨模様のまま当日を迎えました。雨男さん、雨女さんが多かったようです。参加予定者も影響を受け150名を減ることになりました。当初予定は、午前の部で水生生物観察班と木工クラブ班の2ローテによる体験。午後の部は、Bコースの巨木林を目指しての折り返しから、「あんしんの森」前を歩くスケジュールでしたが、天候を考慮して午前の部のみの活動になりました。全体構成は、開会式、準備体操で始まり集会棟内で「ミ下駄」横にて「書けない鉛筆」広場にテン

ト二張りをして「トングリトロ」、「ロケットラン・しゅろバツタ(展示:木製シカ他)」等の製作です。子供たちは、掛持ちで楽しんでいました。水生生物観察は、下見の段階で本流をあきらめ周遊歩道Bの標識南側の沢を選定しました。成果は、ガガンボ、エビトンボ、カゲロウ、カワゲラ、沢ガニを観察することができました。その後、集合写真を撮り、閉会式、昼食場所へ移動してその後解散となりました。雨模様でしたが、けが、事故もなく参加者の満足感を得た良き楽しい土曜日でした。

(記 12期 加藤(久))

◆ 宇津木の森再生プロジェクト2012 第2回目活動

日 7月22日(日)9時30分～15時30分
場 八王子市久保山町 宇津木台緑地(八王子市所有)
参 大人15名+子供1名(小2)、計16名
スタッフ 宇津木台 森遊会代表 金森 巖氏(10期)
 特別参加 10期 松山隆治氏

イ 角田⑩

活動地:宇津木台緑地は約4haの八王子市の雑木林で、オリンピック従業員有志が、この緑地を健全な森に再生したいとの思いで『宇津木台 森遊会』を発足させた。

毎月第4日曜日を活動日と定めて励んでいる。会の活動は、「市民に憩いの場を」、「子供たちに環境教育の場」を提供し、地域社会に愛される森づくりを目指して活動を行っている。この度の活動には一般市民も参加して、午前中は、長い間放置されていた林内のツツジの剪定作業(幅1.5m長さ約15m)と剪定枝の整理、運搬、放棄作業に汗を流した。

引続き、林内の植生調査地保全のために周辺地も含め間伐材を利用した杭打ちとロープ張りを行い、さらに同地が2.5m程の傾斜地上部にあるため、これも間伐材を利用しその取り付け階段を6段作成した。

昼食は林内の竹林から切り出した竹を加工し、長さ13m程のソーメン流し台を作成し大変楽しい昼食会となった。食後は、林内のシュロチクから葉を採取し、全員が熱心にシュロバツタ作りに奮闘して間伐枝に取り付け持ち帰った。15時30分、道具の手入れを済まし、次回の活動での再会を約し解散した。ツツジの剪定作業、間伐材を利用した階段作り、ソーメン流し台作成、シュロバツタ作りと多くの参加者が初めての体験であり、事故もなく楽しく活動ができた。

(記 10期 角田)

◆ 横浜市立釜利谷西小学校 自然観察

日 7月23日(月)10時30分～11時30分、晴れ
場 足柄森林公園 丸太の森
参 4年、5年 145名 教師13名
イ L杉戸⑥ 渡辺③ 宮本④ 高崎④ 渡部⑦ 山崎⑦

内野⑨ 小沢⑨ 杉崎⑩ 松山⑩ 上宮田⑪ 赤崎⑫

体験学習の一環として、森林の働きを説明しながら丸太の森を散策しました。この日は心配されていた雨にはならなか

ったのですが、晴れて蒸し暑くなり、熱中症にも気を配りながらの活動でした。子供たちは1班10人強に教員2名、インストラクター1名が引率して散策コースを周りました。活動時間が1時間だけというなか、インストラクターが各自工夫しながら楽しく森について学べるよう心配りをしたお陰でしょうか、子供たちからは面白かった、知らなかった、等と沢山の感想を頂けました。夏休みになって、カブトムシやクワガタはどこにいるの?と森の働きより昆虫が気になる子も沢山いましたが、他にも様々な虫や動物がいること、クヌギやコナラの樹が無い所には樹液も無いから居ないよね、などと子供たちの発見を大切にしながら私自身も楽しく説明できました。最後に坂を上りきった所にある展望台からは海が見え、一同ほっとし、涼しい風に癒され、森ってすごいね、等とおしゃべりしたらもうお別れ。ちょっと物足りなかったのは私だけだったのでしょうか…。けれども、この日は誰一人ケガをすることもなく安全に活動でき、全体としては充実感で一杯になりました。

(記 12期 赤崎さほり)

◆ 企業庁水源の森林観察会「森林と水の話し、水中昆虫の観察」

日 7月27日(金)10時～14時40分
場 やどりき水源林
参 39名(13家族、うち子供21名)
スタッフ 企業庁:荒井弘行様 他4名
イ L高崎④ 高橋③ 宮本④ 山崎⑦

主催者側の「水資源と森林の関わりについての学習」を念頭において、午前中自然観察、午後水生生物の採集と観察を行った。「自然観察」はBコースの予定であったが、最近増えているヤマビルを避けて、ムササビの巣穴観察を含む寄大橋付近、Bコース出口付近、Bコース「槐の会」パートナー林から巨木林付近までに限定して実施した。予めヤマビルの注意をし、用意した食塩水や忌避剤を靴に処理したにも拘わらず、男の子2名がヒルの被害に遭った。両名とも活発な子供で、草叢や湿地を歩かないよう度々注意したが通用しなかったようである。午後の「水生生物の採集観察」は最近の大雨で広場前の沢が増水し、採集・観察に不適當なので、後沢と林道交差点付近で実施した。酷暑でも16、7℃の清流に入って、水生昆虫のほかプラナリア、カジカガエルのおタマジヤクシ、ヤマメ、カジカなども採集・観察でき大いに満足した様子だった。やどりき水源林自然観察のメインルート、Bコースのヤマビル対策を考えたいものである。

(記 4期 宮本)

略語の説明 **日**: 日付、**場**: 場所、**参**: 参加者、

県: (自然環境保全センター) 自環保・水源の森林推進課

財: (公財)かながわトラスティみどり財団、

スタッフ 例 小田原市森林組合・佐藤様 川崎市公園緑地協会・野牛様

看: 看護師、**イ**: インストラクター (○数字: 期)

やどりき水源林 ミニガイド

・8月のトピックス

水源林の集いなどで多くの人が訪れました。タマアジサイも咲きました。
(写真 林道にて)



・9月の水源林

残暑対策と清流での川遊びにおいでください。森の案内人がご案内します。ご家族連れ、お友達を誘って夏の余韻と秋の気配の両方を味わってください。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度（12月1月2月休止）

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：（公財）かながわトラスト
みどり財団 TEL:045-412-2255

携帯：090-8580-5348
fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線
松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約25分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩35分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

大トンボ展

県立生命の星・地球博物館

開催日：7月14日～11月4日

電話：0465-21-1515

<http://nh.kanagawa-museum.jp/>



《お知らせ》

ニューズレター「しずくちゃん便り」

ホームページで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水源地環境の
保全・再生をめざして



◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

小沢章男まで

Mail:a_ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

送り先

<①電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉2-1-50

Tel/090-6150-6173

Mail:s_akasaki-k_instructor@live.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax:045-301-9401

電話連絡先：090-7962-3168

Mail:matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mail:minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:l2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

<お詫びと訂正>

8月号本誌4ページ「癒し講演会」の記事中、講師の宮崎様のお名前を間違えて掲載してしまいました。関係各所の皆様にご迷惑をお掛けしました事お詫びし訂正いたします。

正しくは宮崎 良文様です。今後ともこのようなことが無いように十分注意し編集いたします。

広報部・本誌担当 松本 保

編集後記

★夏の終わりは祭りの終わりのような寂寥感がぬぐいきれません。だからこそ精一杯遊んで楽しみ、悔いを残さない気持ちで過ごしています。（赤崎）

★先日標高2300メートルの頂上に登りました。そこには沢山の赤とんぼがおり、多分彼らは上昇気流に乗り上がってきたと推測しました。私も人生の上層気流を探しながら生きるつもりです。（小沢）

★暑くて外にでるのが億劫になり、太っちゃいました！（水口）

★残暑お見舞い申し上げます。涼しい高山から、秋茜が里に降りてきました。私たちの五感も退化しつつありますが、トンボ達は敏感に里の秋をキャッチしています。（村井）

★オリンピックや高校野球でたくさんの感動をもらいました。ここ4年甲子園にいていませんが、また、応援にいきたいと思っています。（松本）

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

（頒 価 200円 送料共）

編集人：小沢 章男

事務局：竹島 明、

広報部：水口俊則 松本 保

真貝 勝 鈴木 朗

鈴木松弘 大塚晴子

村井正孝 徳岡達郎

加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

山麓の オアシス

やどりき水源林のお帰りに、ぜひいらしてください。

～お食事処～



まつだの

地酒 * 松みどり

**ギンギンに

冷えて～るよ！

こ ま ち

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店